

# 環境負荷情報の集計範囲と算定方法

## I. 算定期間 (Accounting Period)

2018 年度 (2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

## II. 収集範囲 (Scope of Data Collection)

株式会社野村総合研究所及び主要子会社

会社名	本社の所在 (国内・海外)
株式会社野村総合研究所	国内
NRI ネットコム株式会社	国内
NRI セキュアテクノロジーズ株式会社	国内
NRI データiテック株式会社	国内
NRI プロセスイノベーション株式会社	国内
NRI システムテクノ株式会社	国内
株式会社だいこう証券ビジネス	国内
株式会社 DSB 情報システム	国内
その他国内子会社 13 社	国内
Nomura Research Institute Holdings America, Inc.	海外
Brierley & Partners, Inc.	海外
野村総合研究所 (北京) 有限公司	海外
Nomura Research Institute Asia Pacific Private Limited	海外
Nomura Research Institute Australia Pty Ltd	海外
ASG Group Limited	海外
SMS Management & Technology Limited	海外
その他海外子会社 43 社	海外

## III. 算定方法 (Method of Calculation)

### 環境負荷情報 INPUT (資源利用)

開示情報	定義・算定方法
エネルギー資源 ・電気 ・灯油 ・A 重油 ・都市ガス ・冷水・蒸気・温熱 ・総熱量	エネルギーの使用の合理化等に関する法律 (省エネ法) ・エネルギー資源使用量：各エネルギー供給会社からの年間購入量。 ・総熱量：各エネルギーのジュール換算 (換算係数は地球温暖化対策の推進に関する法律)。
水資源 ・上水 紙資源 ・事務用紙	環境報告ガイドラインによる報告対象 ・上水：水道局からの請求書の使用量を集計。 ・事務用紙：購買システムから事務用紙の購入データの集計。

環境負荷情報 OUTPUT（環境影響）

開示情報	定義・算定方法
温室効果ガス排出量 ・電気 ・灯油、A重油、都市ガス ・冷水・蒸気・温熱	地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法） ・温室効果ガス排出量＝エネルギー使用量×エネルギー毎の排出原単位 ・国内は温対法、海外の電力は Energy Statistics of OECD Countries 2013（International Energy Agency）
事業用排水 ・排水量	環境報告ガイドラインによる報告対象 ・排水量：水道局からの請求書の排水量を集計
紙廃棄物 ・総廃棄物、最終処分量、リサイクル率 産業廃棄物 ・総廃棄物、最終処分量、リサイクル率	・廃棄物：廃掃法で定義される廃棄物（事業所から排出される廃棄物） ・算定方法（紙廃棄物）：機密文書で溶融処理するもののみを対象とする。 ・算定方法（産業廃棄物）：廃掃法で規定されたマニフェスト記載数値の集計 ・リサイクル率の算定方法＝（1－最終処分量÷廃棄物排出量）×100（マニフェストの種類が廃油、木くず、金属くず、廃プラスチック類とメーカーリサイクルのトナー・複合機をリサイクル対象、マニフェストの種類が汚泥、蛍光灯、ガラス・陶磁器（混合）を最終処分とする）

環境負荷情報 OUTPUT（スコープ別排出量）

開示情報	定義・算定方法
スコープ1 排出量	エネルギー資源使用量（灯油・A重油・都市ガス）に対する排出量 算定は省エネ法、温対法による
スコープ2 排出量	エネルギー資源使用量（電力、冷水・蒸気・温熱）に対する排出量 算定は省エネ法、温対法等による
スコープ3 排出量	カテゴリ毎の排出量算定方法は以下の通り 算定は「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン（Ver2.2）」（2015年3月環境省、経済産業省）による。
1：購入した物品・サービス	委託作業料、設備機械費×排出係数
2：資本財	建物、機械装置、器具備品、リース資産×排出係数
3：燃料・エネルギー関連活動	エネルギー資源使用量（電気、冷水・蒸気・温熱）×排出係数
6：出張	NRIは出張費×排出係数、主要子会社は期末人員数×出張の排出係数
7：従業員の通勤	NRIは通勤費×排出係数、主要子会社は期末人員数×通勤の排出係数
11：販売した製品の使用	販売台数実績×1台当たりの年間使用電力量×想定耐用年数×排出係数（1台当たりの年間使用電力量と想定耐用年数は当社が設定した標準的な使用シナリオによる）
12：販売した製品の廃棄	販売台数実績×1台当たりの廃棄重量×排出係数（1台当たりの廃棄重量は当社が設定した標準的な廃棄シナリオによる）

横浜総合センター（横浜野村ビル）

開示情報	定義・算定方法
<b>INPUT</b> エネルギー資源 ・電気 ・都市ガス ・冷水・蒸気 ・総熱量	エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法） ・エネルギー資源使用量：各エネルギー供給会社からの年間購入量。 ・総熱量：各エネルギーのジュール換算（換算係数は地球温暖化対策の推進に関する法律）。
<b>OUTPUT</b> 温室効果ガス排出量 ・電気 ・都市ガス ・冷水・蒸気	地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法） ・温室効果ガス排出量 = エネルギー使用量 × エネルギー毎の排出原単位 ・国内は温対法、海外の電力は <b>Energy Statistics of OECD Countries 2013</b> ( <b>International Energy Agency</b> )

(注) 記載数値は、表示単位未満の端数を切り捨てています。ただし、比率は、表示桁未満の端数を四捨五入しています。

以上